

自由選抜入試

2023年度入試日程はP. 7をご覧ください。

出願の際は必ず入試要項(2022年6月中旬 本学Webサイトにて公開予定)を確認してください。

≫ スポーツウエルネス学部

募集人員	出願資格																																																
スポーツウエルネス学科 30名程度	<p>次の1～5の条件をすべて満たす者。</p> <p>1. 次の(a)・(b)のいずれかに該当する者。 (a) 2021年4月から2023年3月までに高等学校(中等教育学校後期課程、特別支援学校を含む。以下同じ)を卒業する者。 (b) 本学において、個別の入学資格審査により、上記(a)に準ずると認められる者(詳細は、下記を参照すること)。</p> <p>2. 高等学校を卒業している者は、高等学校の評定平均値が3.5以上のもの。 高等学校卒業見込みの者は第3学年第1学期までの全体の評定平均値が3.5以上のもの。 ただし、出願条件5、資格Ⅶで出願する者は評定平均値の条件は設けない。</p> <p>3. 本学スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科での勉学に強い意欲を持つ者。</p> <p>4. 次の英語資格・検定試験のいずれかを受験し、スコアを提出できる者。 ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 (a) 実用英語技能検定[英検] (b) GTEC (c) IELTS (Academic Module) (d) TEAP (e) TEAP CBT (f) TOEFL iBT ※ 英語資格・検定試験の成績は4技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って2年以内に受験したものを有効とする。</p> <p>5. 次の資格Ⅰ～Ⅶのいずれかに該当する者。 [資格Ⅰ] 高等学校等上記出願条件1に該当する教育課程在学中に、スポーツの分野(バラスポーツおよびeスポーツを含む)で優秀な成績を収めた者。 ただし、スポーツ競技の種類は、資格Ⅱの対象となるスポーツ競技種目を除く。 [資格Ⅱ] 高等学校等上記出願条件1に該当する教育課程在学中に、スポーツの分野で都道府県レベル以上の大会においてベスト8以上の成績を収めた者。 団体競技の場合は、ベスト8以上の成績を収めたチームで、指導的役割を果たした者もしくはレギュラーまたはそれに準ずる選手として活躍した者。 ただし、スポーツ競技の種類は下表の種目とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【対象となるスポーツ競技種目一覧】※五十音順</p> <table border="0"> <tr> <td>合気道</td> <td>航空競技(グライダー)</td> <td>柔道</td> <td>バスケットボール</td> <td>ホッケー</td> <td>陸上競技</td> </tr> <tr> <td>アイスホッケー</td> <td>ゴルフ</td> <td>重量挙げ</td> <td>馬術</td> <td>モーターボート・水上スキー</td> <td>レスリング</td> </tr> <tr> <td>アメリカンフットボール</td> <td>サッカー</td> <td>水泳</td> <td>バドミントン</td> <td>スケート</td> <td>ローラーホッケー</td> </tr> <tr> <td>空手</td> <td>山岳</td> <td>スキー</td> <td>バレーボール</td> <td>野球(硬式・準硬式・軟式)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>器械体操</td> <td>射撃</td> <td>相撲</td> <td>ハンドボール</td> <td>ヨット</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弓道</td> <td>少林寺拳法</td> <td>ソフトテニス</td> <td>フェンシング</td> <td>洋弓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>剣道</td> <td>自転車競技</td> <td>卓球</td> <td>ボクシング</td> <td>ラクロス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>拳法</td> <td>自動車競技</td> <td>テニス</td> <td>ボート</td> <td>ラグビー</td> <td></td> </tr> </table> </div> <p>[資格Ⅲ] 芸術分野(音楽、バレエ、書道、日本舞踊など)で、優秀な成績を収めた者。 [資格Ⅳ] 自然・環境分野(ボーイスカウトやガールスカウト、山岳活動やアウトドア活動、自然環境ボランティア、持続可能な社会づくりに関わる活動など)で特別な実績を挙げた者。 [資格Ⅴ] 文系分野(小説、ジャーナリズムなど)で全国または国際レベルの大会への出場経験を有する者。 [資格Ⅵ] 理系分野(数学オリンピック、ロボットコンテストなど)やデータサイエンスの分野で、全国または国際レベルの大会への出場経験を有する者。 [資格Ⅶ] 次の(i)・(ii)のいずれかを満たす者。 (i) 外国において、外国の学校教育制度に基づく中学校・高等学校(7学年以上に相当する課程)で、継続して3学年以上の課程を修了した者(2023年3月までに修了する見込みの者を含む)。 (ii) 外国において、外国の学校教育制度に基づく小学校・中学校・高等学校で、通算して5学年以上の課程を修了した者(2023年3月までに修了する見込みの者を含む)。 ※ ここでいう「外国の学校教育制度に基づく小学校・中学校・高等学校」には、在外教育施設は含まない。</p> <p>【スポーツウエルネス学部:出願条件1(b)の詳細内容について】 (1) 外国において、学校教育における12年の課程を2021年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (2) 日本国内において、高等学校に対応する外国の学校の課程(その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものに限る。)と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を2021年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2021年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (4) 文部科学大臣が指定する国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)の認定を受けた教育施設の12年の課程を2021年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (5) その他、本学において、2021年4月から2023年3月31日までに高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認められた者で、2023年3月31日までに満18歳に達するもの。 ※ ここでいう「高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認められた者」には、高等専門学校の3年次を修了見込みの者、専修学校の高等課程を修了見込みの者、高等学校卒業程度認定試験に合格見込みの者は含まない。 ※ 上記(1)(2)(4)(5)に該当する者については、評定平均値の条件は設けない。ただし、選考においては学業成績も評価の対象とする。</p>	合気道	航空競技(グライダー)	柔道	バスケットボール	ホッケー	陸上競技	アイスホッケー	ゴルフ	重量挙げ	馬術	モーターボート・水上スキー	レスリング	アメリカンフットボール	サッカー	水泳	バドミントン	スケート	ローラーホッケー	空手	山岳	スキー	バレーボール	野球(硬式・準硬式・軟式)		器械体操	射撃	相撲	ハンドボール	ヨット		弓道	少林寺拳法	ソフトテニス	フェンシング	洋弓		剣道	自転車競技	卓球	ボクシング	ラクロス		拳法	自動車競技	テニス	ボート	ラグビー	
合気道	航空競技(グライダー)	柔道	バスケットボール	ホッケー	陸上競技																																												
アイスホッケー	ゴルフ	重量挙げ	馬術	モーターボート・水上スキー	レスリング																																												
アメリカンフットボール	サッカー	水泳	バドミントン	スケート	ローラーホッケー																																												
空手	山岳	スキー	バレーボール	野球(硬式・準硬式・軟式)																																													
器械体操	射撃	相撲	ハンドボール	ヨット																																													
弓道	少林寺拳法	ソフトテニス	フェンシング	洋弓																																													
剣道	自転車競技	卓球	ボクシング	ラクロス																																													
拳法	自動車競技	テニス	ボート	ラグビー																																													
	<p>次の1～3の条件をすべて満たす者。</p> <p>1. 次の(a)・(b)のいずれかに該当する者。 (a) 2022年4月から2023年3月までに高等学校(中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む。以下同じ)を卒業見込みの者。 (b) 本学において、個別の入学資格審査により、上記(a)に準ずると認められる者(詳細は、下記を参照すること)。</p> <p>2. 本学異文化コミュニケーション学部におけるDual Language Pathwayでの勉学に強い意欲を持つ者。</p> <p>3. 次の英語資格・検定試験のいずれかの成績を取得している者。 ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 (a) 実用英語技能検定[英検]スコア2,400点以上 (b) IELTS (Academic Module) オーバーオール・バンド・スコア6.0以上 (c) TEAPスコア332点以上 (d) TEAP CBTスコア671点以上 (e) TOEFL iBTスコア80点以上 ※ 英語資格・検定試験の成績は4技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って2年以内に受験したものを有効とする。</p> <p>【異文化コミュニケーション学部:出願条件1(b)の詳細内容について】 (1) 外国において、学校教育における12年の課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (2) 日本国内において、高等学校に対応する外国の学校の課程(その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものに限る。)と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (4) 文部科学大臣が指定する国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)の認定を受けた教育施設の12年の課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (5) その他、本学において、2022年4月から2023年3月31日までに高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認められた者で、2023年3月31日までに満18歳に達するもの。 ※ ここでいう「高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認められた者」には、高等専門学校の3年次を修了見込みの者、専修学校の高等課程を修了見込みの者、高等学校卒業程度認定試験に合格見込みの者は含まない。</p>																																																
	<p>選考方法</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>第1次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 出願書類をもとに書類選考(小論文の課題) 異文化を理解するということはどういうことかについて述べ、さらにそれがどのように社会貢献につながるかについて、2,000字程度で論じてください。小論文に書かれた内容・論理的構成力・文章表現力などを総合的に評価します。 </td> <td> <p>第2次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接試験:異文化コミュニケーションに関する30分の英語による講義を聴講後、講義に関する文章を英語で書き、その後面接試験を実施します。 </td> </tr> </table>	<p>第1次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 出願書類をもとに書類選考(小論文の課題) 異文化を理解するということはどういうことかについて述べ、さらにそれがどのように社会貢献につながるかについて、2,000字程度で論じてください。小論文に書かれた内容・論理的構成力・文章表現力などを総合的に評価します。 	<p>第2次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接試験:異文化コミュニケーションに関する30分の英語による講義を聴講後、講義に関する文章を英語で書き、その後面接試験を実施します。 																																														
<p>第1次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 出願書類をもとに書類選考(小論文の課題) 異文化を理解するということはどういうことかについて述べ、さらにそれがどのように社会貢献につながるかについて、2,000字程度で論じてください。小論文に書かれた内容・論理的構成力・文章表現力などを総合的に評価します。 	<p>第2次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接試験:異文化コミュニケーションに関する30分の英語による講義を聴講後、講義に関する文章を英語で書き、その後面接試験を実施します。 																																																
	<p>【出願書類】 入学志願票/課題小論文/調査書/証明書類</p> <p>▶ 自由選抜入試と併願することができます。ただし、自由選抜入試異文化コミュニケーション学部【方式B】とは併願できません。 ▶ 「日本の学校教育制度に基づく高等学校」以外の学校出身者は、出願期間前に審査が必要です。詳細は入試要項を確認してください。</p>																																																
	<p>選考方法</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>第1次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 出願書類をもとに書類選考 </td> <td> <p>第2次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 小論文:論文作成のための素材や枠がある程度与えられ、独自の発想・問題理解力・論理的構成力・文章表現力・知的素養などが評価されます。 面接試験:個別面接・プレゼンテーション・グループディスカッションを2日間にわたって実施します。 </td> </tr> </table>	<p>第1次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 出願書類をもとに書類選考 	<p>第2次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 小論文:論文作成のための素材や枠がある程度与えられ、独自の発想・問題理解力・論理的構成力・文章表現力・知的素養などが評価されます。 面接試験:個別面接・プレゼンテーション・グループディスカッションを2日間にわたって実施します。 																																														
<p>第1次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 出願書類をもとに書類選考 	<p>第2次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 小論文:論文作成のための素材や枠がある程度与えられ、独自の発想・問題理解力・論理的構成力・文章表現力・知的素養などが評価されます。 面接試験:個別面接・プレゼンテーション・グループディスカッションを2日間にわたって実施します。 																																																
	<p>【出願書類】 入学志願票/調査書/活動報告書/証明書類</p>																																																

国際コース選抜入試

2023年度入試日程はP. 7をご覧ください。

出願の際は必ず入試要項(2022年6月中旬 本学Webサイトにて公開予定)を確認してください。

≫ 異文化コミュニケーション学部 × Dual Language Pathway

学部の専門科目を主に英語で修得し、これからのグローバル社会に貢献できる人材を育てるコースです。コース履修者には欧米の大学で授業を受けられる水準の英語能力を求めます。本コースを卒業する学生には、コースの修了証明書を授与します。

募集人員	出願資格		
異文化コミュニケーション学部 15名程度	<p>次の1～3の条件をすべて満たす者。</p> <p>1. 次の(a)・(b)のいずれかに該当する者。 (a) 2022年4月から2023年3月までに高等学校(中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む。以下同じ)を卒業見込みの者。 (b) 本学において、個別の入学資格審査により、上記(a)に準ずると認められる者(詳細は、下記を参照すること)。</p> <p>2. 本学異文化コミュニケーション学部におけるDual Language Pathwayでの勉学に強い意欲を持つ者。</p> <p>3. 次の英語資格・検定試験のいずれかの成績を取得している者。 ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 (a) 実用英語技能検定[英検]スコア2,400点以上 (b) IELTS (Academic Module) オーバーオール・バンド・スコア6.0以上 (c) TEAPスコア332点以上 (d) TEAP CBTスコア671点以上 (e) TOEFL iBTスコア80点以上 ※ 英語資格・検定試験の成績は4技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って2年以内に受験したものを有効とする。</p> <p>【異文化コミュニケーション学部:出願条件1(b)の詳細内容について】 (1) 外国において、学校教育における12年の課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (2) 日本国内において、高等学校に対応する外国の学校の課程(その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものに限る。)と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (4) 文部科学大臣が指定する国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)の認定を受けた教育施設の12年の課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 (5) その他、本学において、2022年4月から2023年3月31日までに高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認められた者で、2023年3月31日までに満18歳に達するもの。 ※ ここでいう「高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認められた者」には、高等専門学校の3年次を修了見込みの者、専修学校の高等課程を修了見込みの者、高等学校卒業程度認定試験に合格見込みの者は含まない。</p>		
	<p>選考方法</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>第1次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 出願書類をもとに書類選考(小論文の課題) 異文化を理解するということはどういうことかについて述べ、さらにそれがどのように社会貢献につながるかについて、2,000字程度で論じてください。小論文に書かれた内容・論理的構成力・文章表現力などを総合的に評価します。 </td> <td> <p>第2次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接試験:異文化コミュニケーションに関する30分の英語による講義を聴講後、講義に関する文章を英語で書き、その後面接試験を実施します。 </td> </tr> </table>	<p>第1次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 出願書類をもとに書類選考(小論文の課題) 異文化を理解するということはどういうことかについて述べ、さらにそれがどのように社会貢献につながるかについて、2,000字程度で論じてください。小論文に書かれた内容・論理的構成力・文章表現力などを総合的に評価します。 	<p>第2次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接試験:異文化コミュニケーションに関する30分の英語による講義を聴講後、講義に関する文章を英語で書き、その後面接試験を実施します。
<p>第1次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 出願書類をもとに書類選考(小論文の課題) 異文化を理解するということはどういうことかについて述べ、さらにそれがどのように社会貢献につながるかについて、2,000字程度で論じてください。小論文に書かれた内容・論理的構成力・文章表現力などを総合的に評価します。 	<p>第2次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接試験:異文化コミュニケーションに関する30分の英語による講義を聴講後、講義に関する文章を英語で書き、その後面接試験を実施します。 		
	<p>【出願書類】 入学志願票/課題小論文/調査書/証明書類</p>		

▶ 自由選抜入試と併願することができます。ただし、自由選抜入試異文化コミュニケーション学部【方式B】とは併願できません。
▶ 「日本の学校教育制度に基づく高等学校」以外の学校出身者は、出願期間前に審査が必要です。詳細は入試要項を確認してください。

国際コース選抜入試

2023年度入試日程はP.7をご覧ください。
出願の際は必ず入試要項(2022年6月中旬 本学Webサイトにて公開予定)を確認してください。

≫ 社会学部 × 国際社会コース

グローバルな視点から日本と海外の社会と文化を理解し、地球社会で活躍する人材を育てるという社会学部の国際化目標を先駆的に追求することを目的としたコースです。
学部英語科目を軸に3学科の専門科目を学生の関心に沿って横断的に履修できます。

募集人員	出願資格
社会学部 5名程度 現代文化学科 5名程度 メディア社会学科 5名程度	<p>次の1～4の条件をすべて満たす者。</p> <ol style="list-style-type: none"> 次の(a)～(c)のいずれかに該当する者。 <ol style="list-style-type: none"> 高等学校(中等教育学校後期課程を含む。以下同じ)を卒業した者および2023年3月卒業見込みの者。 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および2023年3月修了見込みの者。 本学において、個別の入学資格審査により、上記(a)に準ずると認められる者(詳細は、下記を参照すること)。 高等学校を卒業している者は、高等学校の評定平均値が3.8以上の者。 高等学校卒業見込みの者は、第3学年第1学期までの全体の評定平均値が3.8以上の者。 なお、出願条件1(a)に該当しない者については、評定平均値の条件は設けない。 本学社会学部(社会学科、現代文化学科、メディア社会学科)において国際社会コースの履修を強く希望する者。 次の英語資格・検定試験のいずれかの成績を取得している者。 ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 <ol style="list-style-type: none"> ケンブリッジ英語検定スコア153点以上 実用英語技能検定[英検]スコア2,180点以上 GTECスコア1,115点以上 IELTS(Academic Module)オーバーオール・バンド・スコア5.0以上 TEAPスコア280点以上 TEAP CBTスコア540点以上 TOEFL iBTスコア62点以上 ※ 英語資格・検定試験の成績は4技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って2年以内に受験したものを有効とする。 <p>【社会学部：出願条件1(c)の詳細内容について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。 日本国内において、高等学校に対応する外国の学校の課程(その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものに限る。)と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。 文部科学大臣が指定する国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)の認定を受けた教育施設の12年の課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。 その他、本学において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者および2023年3月31日までにこれに該当する見込みの者で、2023年3月31日までに満18歳に達するもの。 ※ ここでいう「高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者」には、専修学校の高等課程を修了した者、高等学校卒業程度認定試験に合格した者は含まない。
選考方法	
第1次選考 ● 出願書類をもとに書類選考	第2次選考 ● 小論文：与えられたテーマについて書かれた小論文から、論理的構成力・文章表現力・知的素養・独創的発想などを総合的に評価します。 ● 面接試験
【出願書類】 入学志願票／志望理由書／調査書／証明書類	
▶ 自由選抜入試と併願することはできません。ただし、自由選抜入試異文化コミュニケーション学部 方式B に限り併願が可能です。 ▶ 「日本の学校教育制度に基づく高等学校」以外の学校出身者は、出願期間前に審査が必要です。詳細は入試要項を確認してください。	

≫ 法学部 国際ビジネス法学科 × グローバルコース

法律の観点から外国企業との取引のための交渉や、紛争の予防・解決に向けた考え方について学び、国際舞台で通用する法知識とセンスを磨く「グローバルコース」を国際ビジネス法学科内に設けます。
原則、英語のみで学位取得が可能です。

募集人員	出願資格
国際ビジネス法学科 グローバルコース 15名	<p>次の1～4の条件をすべて満たす者。</p> <ol style="list-style-type: none"> 次の(a)～(c)のいずれかに該当する者。 <ol style="list-style-type: none"> 高等学校(中等教育学校後期課程を含む。以下同じ)を卒業した者および2023年3月卒業見込みの者。 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および2023年3月修了見込みの者。 本学において、個別の入学資格審査により、上記(a)に準ずると認められる者(詳細は、下記を参照すること)。 高等学校を卒業している者は、高等学校の評定平均値が3.8以上の者。 高等学校卒業見込みの者は、第3学年第1学期までの全体の評定平均値が3.8以上の者。 なお、出願条件1(a)に該当しない者については、評定平均値の条件は設けない。 本学法学部国際ビジネス法学科グローバルコースでの履修を強く希望する者。 次の英語資格・検定試験のいずれかの成績を取得している者。 ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 <ol style="list-style-type: none"> ケンブリッジ英語検定スコア153点以上 実用英語技能検定[英検]スコア2,180点以上 GTECスコア1,115点以上 IELTS(Academic Module)オーバーオール・バンド・スコア5.0以上 TEAPスコア280点以上 TEAP CBTスコア540点以上 TOEFL iBTスコア62点以上 ※ 英語資格・検定試験の成績は4技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って2年以内に受験したものを有効とする。 <p>【法学部：出願条件1(c)の詳細内容について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。 日本国内において、高等学校に対応する外国の学校の課程(その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものに限る。)と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。 文部科学大臣が指定する国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)の認定を受けた教育施設の12年の課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。 その他、本学において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者および2023年3月31日までにこれに該当する見込みの者で、2023年3月31日までに満18歳に達するもの。 ※ ここでいう「高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者」には、高等専門学校の3年次を終了見込みの者、専修学校の高等課程を修了した者、高等学校卒業程度認定試験に合格した者は含まない。
選考方法	
第1次選考 ● 出願書類をもとに書類選考 ● 指定する英語の文章を読んだうえで、1,000～2,000wordsの範囲内の英語による課題小論文を作成してください。 ※ 英語の文章、word数等については、入試要項(6月中旬公開予定)で案内します。	第2次選考 ● 面接試験：グローバル化した現代社会の問題を扱った30分の英語による講義を聴講後、面接試験を実施します。
【出願書類】 入学志願票／志望理由書／課題小論文／調査書／証明書類	
▶ 自由選抜入試と併願することができます。ただし、自由選抜入試異文化コミュニケーション学部 方式B とは併願できません。 ▶ 「日本の学校教育制度に基づく高等学校」以外の学校出身者は、出願期間前に審査が必要です。詳細は入試要項を確認してください。	

国際コース選抜入試

2023年度入試日程はP.7をご覧ください。
出願の際は必ず入試要項(2022年6月中旬 本学Webサイトにて公開予定)を確認してください。

≫ Global Liberal Arts Program (GLAP)

立教大学がこれまで培ってきた「リベラルアーツ」の理念と国際性を養う教育を少人数で行い、英語による科目のみで学位が取得できる、既存の10学部から独立したプログラムです。英語によるコミュニケーション、思考力、表現力など、卒業後に広く世界で活躍できる力を身につけます。

募集人員	出願資格
GLAP 12名程度	<p>次の1～3の条件をすべて満たす者。</p> <ol style="list-style-type: none"> 次の(a)～(c)のいずれかに該当する者。 <ol style="list-style-type: none"> 高等学校(中等教育学校後期課程を含む。以下同じ)を卒業した者および2023年3月卒業見込みの者。 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および2023年3月修了見込みの者。 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者および2023年3月31日までにこれに該当する見込みの者(詳細は、下記を参照すること)。 グローバル・リベラルアーツ・プログラムでの勉学に強い意欲を持つ者。 次の英語資格・検定試験のいずれかの成績を取得している者。 <ul style="list-style-type: none"> ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 <ol style="list-style-type: none"> ケンブリッジ英語検定スコア160点以上 実用英語技能検定[英検]スコア2,600点以上 GTECスコア1,190点以上 IELTS(Academic Module)オーバーオール・バンド・スコア5.5以上 TEAPスコア309点以上 TEAP CBTスコア600点以上 TOEFL iBTスコア72点以上 ※ 英語資格・検定試験の成績は4技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って2年以内に受験したものを有効とする。 <p>【グローバル・リベラルアーツ・プログラム：出願条件1(c)の詳細内容について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したものの。 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。 文部科学大臣の指定した者。 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規定による大学入学資格検定に合格した者を含む)および2023年3月31日までに合格見込みの者。 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの。 その他、本学において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者および2023年3月31日までにこれに該当する見込みの者で、2023年3月31日までに満18歳に達するもの。
選考方法	
<p>第1次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 出願書類をもとに書類選考 	<p>第2次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 小論文:英語による小論文を実施します。与えられた英文を読み、そのテーマについて書かれた小論文から、読解力・論理的構成力・文章表現力などを総合的に評価します。 面接試験
<p>【出願書類】入学志願票／志望理由書／調査書^{*1}／証明書類</p> <p>* 1. 高等学校卒業程度認定試験合格者(廃止前の大学入学資格検定に合格した者を含む)は、「合格成績証明書」または「合格見込成績証明書」。</p>	
<p>▶自由選抜入試と併願することができます。ただし、自由選抜入試異文化コミュニケーション学部 方式Bとは併願できません。</p> <p>▶「日本の学校教育制度に基づく高等学校」以外の学校出身者は、出願期間前に審査が必要です。詳細は入試要項を確認してください。</p>	

アスリート選抜入試

2023年度入試日程はP.7をご覧ください。
出願の際は必ず入試要項(2022年6月中旬 本学Webサイトにて公開予定)を確認してください。

「アスリート選抜入試」は、立教大学の建学の精神に基づいて、知性・感性・身体のパランスが取れた、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材の育成を目的としています。スポーツ競技の実績が優秀であるだけでなく、人格的にも優れた学業に対する高い意欲を持つ者を選抜し、立教大学体育会各部をリードするとともに立教大学生の模範と成り得る学生を育てたい、と考えています。

≫ 全学部

募集人員	出願資格
全学部 全学部とも若干名	<p>次の1～4の条件をすべて満たす者。ただし、文学部文学科英米文学専修、経営学部国際経営学科、異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は次の1.2.3.5の条件を満たす者。</p> <ol style="list-style-type: none"> 本学への入学を強く希望し、入学後、学業と体育会でのスポーツ活動とを両立させる強い意欲を持つ者。 次の(a)・(b)のいずれかに該当する者。 <ol style="list-style-type: none"> 2022年4月から2023年3月までに高等学校(中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む。以下同じ)を卒業する者で、高等学校第2学年末までの全体の評定平均値が3.5以上のもの。 ※ 理学部各学科を志望する者は、(a)の条件に加え、各学科が指定する下記の科目のうち、高等学校第2学年末までに履修した科目の評定平均値が、当該学科の定める評定平均値以上の者。 <ol style="list-style-type: none"> 数学科:数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学Bを指定科目とする。理数数学Ⅰ、理数数学Ⅱ、理数数学特論履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる(理数数学特論を履修していない場合は、出願前に問い合わせてください)。履修した科目の評定平均値が4.2以上の者。 物理学科:物理基礎、物理を指定科目とする。理数物理履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる。履修した科目の評定平均値が4.0以上の者。 化学科:化学基礎、化学を指定科目とする。理数化学履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる。履修した科目の評定平均値が4.0以上の者。 生命理学科:化学基礎、化学、生物基礎、生物を指定科目とする。理数化学、理数生物履修者は上記科目に相当する科目に置き換えることができる。履修した科目の評定平均値が4.0以上の者。 ※ 理学部入学後の授業は、「数学Ⅲ」の履修を前提として行います。 本学において、個別の入学資格審査により、上記(a)に準ずると認められる者(詳細は、下記を参照すること)。 <ol style="list-style-type: none"> 募集競技種目において、高等学校等上記出願条件2に該当する教育課程在学中の競技実績が次の(a)～(d)のいずれかに該当する者。 <ol style="list-style-type: none"> オリンピック、世界選手権、IF(インターナショナル・フェデレーション)主催の国際大会、およびこれらに相当する国際大会に出場した者。 全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選手権大会、全国高等学校選抜大会、国民体育大会、およびこれらに相当する全国大会において、16位以上の成績を収めた者。団体競技の場合は、16位以上の成績を収めたチームで、正選手として出場した者。 各地域のブロック大会において、8位以上の成績を収めた者。団体競技の場合は、8位以上の成績を収めたチームで、正選手として出場した者。 ※ 各地域のブロック大会とは、北海道(ただし、都道府県大会と同等の大会は除く)、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州などの地区大会を指す。 その他、上記(a)～(c)と同等以上の実績を、公式競技記録等により証明できる者。 ※ (a)～(c)について、国公立高等学校大会、私立高等学校大会などは競技実績の対象とはなりません。 ※ (a)～(d)について、パラリンピック種目の競技大会は競技実績の対象とはなりません。 ※ 出願条件3.に該当しない競技実績についても、自由選抜入試で出願できる場合があります。 <ol style="list-style-type: none"> 次の英語資格・検定試験のいずれかを受験し、スコアを提出できる者。 <ul style="list-style-type: none"> ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 <ol style="list-style-type: none"> ケンブリッジ英語検定 実用英語技能検定[英検] GTEC IELTS(Academic Module) TEAP TEAP CBT TOEFL iBT ※ 英語資格・検定試験の成績は4技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って2年以内に受験したものを有効とする。 <ol style="list-style-type: none"> 次の英語資格・検定試験のいずれかの成績を取得している者。 <ul style="list-style-type: none"> ▶利用できる英語資格・検定試験については、詳細を別途参照すること。 <ol style="list-style-type: none"> ケンブリッジ英語検定スコア140点以上 実用英語技能検定[英検]スコア1,950点以上 GTECスコア960点以上 IELTS(Academic Module)オーバーオール・バンド・スコア4.0以上 TEAPスコア225点以上 TEAP CBTスコア420点以上 TOEFL iBTスコア42点以上 ※ 英語資格・検定試験の成績は4技能スコアのみ有効とする。 ※ いずれも出願期間の初日から遡って2年以内に受験したものを有効とする。
<p>【出願条件2(b)の詳細内容について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 外国において、学校教育における12年の課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 日本国内において、高等学校に対応する外国の学校の課程(その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものに限る。)と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 文部科学大臣が指定する国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)の認定を受けた教育施設の12年の課程を2022年4月から2023年3月31日までに修了見込みの者。 その他、本学において、2022年4月から2023年3月31日までに高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認められた者で、2023年3月31日までに満18歳に達するもの。 ※ ここでいう「高等学校を卒業した者と同等以上の学力が備わる見込みがあると認められた者」には、高等専門学校の3年次を修了見込みの者、専修学校の高等課程を修了見込みの者、高等学校卒業程度認定試験に合格見込みの者は含まない。 	
選考方法	
<p>第1次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 出願書類をもとに書類選考 	<p>第2次選考</p> <ul style="list-style-type: none"> 小論文:与えられたテーマについて書かれた小論文から、論理的構成力・文章表現力・知的素養・独創的発想などを総合的に評価します。 面接試験
<p>【出願書類】入学志願票／志望理由書／調査書／競技実績証明書および証明資料／証明書類</p>	

募集競技種目 ※五十音順

合気道	水泳競技	バレーボール(男子)
アイスホッケー(男子)	スキー	バレーボール(女子)
アメリカンフットボール(男子)	スピードスケート	ハンドボール(男子)
空手道	相撲	フィギュアスケート
弓道	ソフトテニス	フェンシング
剣道	体操競技(新体操を含む)	ボート
硬式野球(男子)	卓球(男子)	ボクシング(男子)
ゴルフ	卓球(女子)	ホッケー
サッカー(男子)	テニス	洋弓(アーチェリー)
山岳	軟式野球(男子)	ヨット
自転車競技	日本拳法	ラグビー(男子)
射撃	馬術	ラクロス(男子)
柔道	バスケットボール(男子)	ラクロス(女子)
重量拳(ウエイトリフティング)	バスケットボール(女子)	陸上競技
準硬式野球(男子)	バドミントン(男子)	レスリング
少林拳法	バドミントン(女子)	